

主要博物館の対比表

博物館名	山梨県立博物館	長野県立歴史館	滋賀県立琵琶湖博物館	兵庫県立人と自然の博物館	三重県立博物館
設置主体	山梨県	長野県	滋賀県	兵庫県	三重県
開館年月日	H17.10.15	H6.11.3	H8.10.20	H4.10.9	S28.6.28
面積 延床面積(m ²)	8,760.89	10,457.00	23,987.00	18,691.00	3,176.00
展示面積(m ²)	2,764.83	1,570.00	6,106.00	4,049.00	333.00
収蔵庫面積(m ²)	1,458.28	1,860.00	5,000.00	2,951.00	1,718.00
職員 事務系(人)	8	3	11	14	1
学芸系(人)	11	19	26	36	7
所蔵資料点数	206,894	273,647	380,000	74,321	280,000
入館者数(H18年度)	124,697	112,230	476,563	206,605	16,977
支出(平成18年度)(千円) (常勤職員の人件費含まず)	282,216	172,706	719,935	445,819	53,560
支出のうちの事業費(千円)	76,170	41,954	409,434	122,852	32,123 (うち18年度新規事業 移動展示 の事業費27,773千円)
収入(H18年度)(千円)	34,496	6,981	179,699	5,656	227
博物館建設事業費(千円)	12,098,101	7,918,970	21,979,389	8,070,020	—
分野	歴史に重点を置いた県立博物館	歴史系博物館	自然系の総合的博物館	自然系博物館	総合博物館
テーマ	山梨の自然と人	信濃の風土と人びとの暮らし	湖と人間	人と自然の共生博物館	三重の自然と歴史文化
特色	近年建設の県立博物館の好例	公文書館機能と埋蔵文化財機能が併設された博物館	先進的な利用者参画型博物館	高水準の研究機能を備えた県民参画型の生涯学習院	みんなの博物館
コンセプト	・歴史に重点をおいた博物館 ・参加体験・交流型博物館 ・ハブ博物館(県内各地の自然・文化遺産や、文化施設を結ぶネットワーク博物館) ・成長する博物館	・考古資料・行政文書・古文書などの歴史資料の収集、保存、調査研究、情報提供及び展示等を行い、県民が文化財への親しみと理解を深めるための歴史学習活動を支援する。	・利用者との間で知識や情報を交換し、語り合う場を用意することで、たえず成長・発展する博物館を目指す。 ・テーマをもった博物館 ・フィールドへの誘いとなる博物館 ・交流の場としての博物館	・貴重な資料標本と優れた研究者などが核となって、生涯学習に機能的に対応できる「人と自然の共生博物館」を目指している。	・三重の自然や歴史文化を知るきっかけづくりの博物館。
展示内容	・常設展示は、「山梨の自然と人」を紹介する鑑賞・学習型展示と体験型展示「歴史の体験工房」からなる。 ・6分割できる企画展示室(757m ²)は、全国巡回の展示企画にも対応可能な規模であり、規模の増減も容易なため多様な展示企画に対応可能。	・東日本と西日本、太平洋側と日本海側の人と物の交流する結節点として、独自の風土と文化をはぐくんできた長野の歴史を紹介するオーソドックスな通史展示。	・琵琶湖とその周辺の生活や生態系からみた人と自然の関係や環境がテーマ。 ・琵琶湖やその周辺と世界の湖に住む魚を中心とした水族展示。	・常設展示は、「兵庫の自然誌」をはじめとして、「人と自然」「新しい文化」「生物の世界」「地球、生命と大地」と題する五つの主題のもとに、人と自然のかかわり、変動する地球の姿とそこで展開される生命の営みを紹介。	・トバリユウとミエゾウの化石を中心とした常設的展示と企画展示を実施している。 ・資料に触れることができる体験型展示を設置している。
参考となる博物館活動の特色	・規模的に、当県の新博物館検討のためのよい参考になる事例である。 ・ハブ博物館の一環としての地域インデックスコーナーや資料閲覧室(司書を配置)は、ネットワーク型博物館の参考になる。 ・第三者機関「みんなでつくる博物館協議会」の設置や、通信簿ツアー、NPOとの連携などの活動は、県民参画型博物館の参考事例である。	・総合情報課・考古資料課・文献史料課の3課により博物館・公文書館・埋蔵文化財センター機能(今は収蔵と保存処理のみ)を併せもった館は、他に例のない試みである。	・県民参画型(利用者主体の博物館運営)の先進的な取り組みを行っている。 ・はしかけ制度(県民が主体となり、博物館活動に参画するシステム。三重県立博物館のサポートスタッフ制度もこの取り組みに多くを学んでいる) ・フィールドレポーター(県民参画型の調査活動) ・高度な研究機能を博物館活動に活かすために学芸員の所在場所として、研究室の他に事務学芸室がある。	・職員の約半数が県立大学の教員の兼職となっており、研究機能が高い。 ・開館以来の研究機能に重心を置いた活動により、博物館に対する批判が高まり、改革が行われることになった。 ・その結果、学芸員(研究員)すべてが研究業務と博物館事業分野を兼務する体制をしくこととなった。 ・キャラバン事業、シンクタンク機能、先進的な資料の収蔵機能など見習うべき点が多い。	新しい時代の博物館を目指した試みとして、平成18年度より以下の試みを実践している。 ・移動展示(県内5ヶ所) ・サポートスタッフ活動
留意されるべき課題	・常設展示は、よく内容が練られたものであるが、全体としては、模型と映像機器が中心となっており固定的な展示となっている。 ・ハブ博物館機能は、まだこれからという感じであり、県内の文化財や博物館を検索できるインデックスコーナーも限定的であり、ネットワークの具現化が容易でないことがわかる。	・開館以後、人員削減等に起因する公文書機能と埋蔵文化財機能の低下傾向に対して、博物館機能が相対的に重視される結果を招き、閲覧手続きにおける歴史史料課との齟齬などの問題も抱えている。 ・常設展示には実物大の模型が多く固定的で展示替えが難しい。	・展示面積・収蔵庫面積など、県立級の博物館としては、最大級の規模をもった博物館であり、そのまま参考になるものではないが、理念や具体的な取り組みには参考とすべき点が多い。	・北摂・丹波の祭典「ホロンピア'88」の中心施設「ホロンピア館」の流用のため、展示構成・動線が機能的になっていない。既存施設を流用する場合の留意点。	先進的な他館の取り組みを参考に、新たな博物館活動を展開するためには、ハード・ソフト両面の改善が必要である。

